

令和 2 年度 御幸小学校 学校評価書

※ 網掛けのない部分が評価計画、網掛けの部分が評価結果を受けて記入する。

1 教育目標（目指す児童像含む）

心身ともに健康で、よく考えて判断する力と自主的に行動するたくましい実践力をもち、誠実で思いやりがあり、豊かな心を持った児童の育成を目指す。

2 学校経営の理念（目指す学校像含む）

【めざす学校像】 <一人一人が いきいきと 輝く 御幸小>

- ・ 子供たちが毎朝早く学校に行って、友達や先生と一緒にになって、勉強や運動をしたいと思える学校
- ・ 教職員が職場の仲間と一緒にになって、子供たちのために実践と研修に励む学校
- ・ 保護者や地域住民と一緒にになって、地域の学校を誇りに思い、進んで手伝いたくなるような学校

3 学校経営の方針（中期的視点） ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針は文頭に○印を付ける。

【鬼怒地域学校園教育ビジョン】学習や学校行事等を通して学校生活に意欲を持って取り組む子供の育成

（1）児童がいきる学校（共に伸びる子供）

児童一人一人がいきいき、のびのびと活動し、様々な「できた楽しさ」を味わう中で、自分の将来の自立と共生に向けて、「豊かな心」「確かな学力」「健康・安全」の育成・向上に努める。

① 豊かな心（やさしく）の育成

- ・ 児童一人一人が生き生きとした学校生活が送れるようにするため「豊かな心育成全校運動」を推進する。

② 確かな学力（かしこく）の向上

- ・ 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業研究会を実施するとともに、基礎・基本の定着を図るため「チャレンジ学習全校運動」を推進する。

③ 健康・体力（たくましく）の向上

- ・ 健康で安全な生活習慣を身に付け、体力の向上を目指す児童を育成するため「元気っ子活動全校運動」を推進する。

（2）教職員がいきる学校（共に高め合う職員）

- ・ 授業実践や授業研究を通じた授業力の向上

○（3）家庭・地域といきる学校（共に歩む学校）

- ・ 魅力ある学校づくり地域協議会との連携協力

4 教育課程編成の方針

（1）基本方針

- ① 日本国憲法・教育基本法・学校教育法及び同施行規則・小学校学習指導要領・栃木県教育委員会の指針並びに宇都宮市学校教育の重点の示すところに従い、本校の教育目標の達成を期するよう編成するための経営方針や前年度の学校マネジメントの成果と課題、本年度の方策等を踏まえた特色ある教育課程を編成する。
- ② 「第2次宇都宮市学校教育スタンダード」における目標を具現化し、「小中一貫教育・地域学校園」の実施に合わせて、目指す児童像を実現するための学校の在り方や具体的方策を明らかにした教育課程を編成する。
- ③ 教育目標の具現化に向け、本校がこれまで積み重ねてきた伝統を生かしながら、徳（やさしく）・知（かしこく）・体（たくましく）の調和の取れた教育課程を編成する。

（2）具体方針

- ① 本校は、平出工業団地が隣接していることや新興住宅地域であることなど、地域性や保護者の実態に応じ、学校—家庭—地域が一体となった教育を推進するよう編成する。
- ② 児童の発達段階や特性、児童を取り巻く社会環境・情勢の変化、問題行動の複雑化・多様化、家庭・

地域教育力の現状，社会体験や自然体験等の実施などを把握し，児童の実態に応じた教育課程を編成する。

③ 自ら学ぶ意欲と変化に対応できる能力を身に付け，個性を伸ばし創造性ある人間育成を目指した教育課程を編成する。

④ 鬼怒地域学校園・小中一貫教育の理念に沿い，制度の円滑な実施と趣旨に応じた創意ある取組の促進を目指した教育課程を編成する。

5 今年度の重点目標（短期的視点）※「小中一貫教育・地域学校園」に関する重点目標は文頭に○印を付ける。

（１）学校経営

- ・ 学ぶことの楽しさが実感できる授業実践と授業力の向上を目指すとともに，道德教育を通して，豊かな心と自主性を育む教育の推進に努める。

- ・ 行事の精選や諸計画の見直し，業務の適正化を図り，児童と向き合う時間や教師の研修時間の確保に努め，より良い学級経営，教科経営の推進を図る。

○ 家庭や地域，鬼怒地域学校園との連携を深め，地域人材の支援を得た体験活動を重視し，未来に向かって力強く頑張ろうとする意欲に満ちた児童を育成する。

（２）学習指導

- ・ 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業実践を追究する。

- ・ 基礎学力定着への取組を行う。

- ・ 積極的な読書活動推進のための手立てを行う。

（３）児童生徒指導

- ・ 学校生活のためのきまりやマナーを守る意識を高める。（集団生活のきまりの徹底化）

- ・ いじめのない学校への取組を行う。

- ・ 時と場に応じたあいさつと正しい言葉づかいの習慣化を図る。

（４）健康（体力・保健・食・安全）

- ・ 運動を伴う遊びを奨励する。

- ・ 走跳投の基礎感覚・基礎技能を高めるための取組を行う。

- ・ 食への意識・意欲を高める。

- ・ 登下校時の安全意識を高める。

6 自己評価（評価項目のAは市共通，Bは学校独自を示す。）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は，文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

※「主な具体的な取組」の方向性には，A拡充 B継続 C縮小・廃止，を自己評価時に記入する。

項目	評価項目	主な具体的な取組	方向性	評 価												
	A 1 児童は、進んで学習に取り組んでいる。 【数値指標】 ・児童・教職員の肯定的回答率 90%以上	○主体的、対話的で、深い学びの具現化を図る。 ・友達と協力して活動したり、思いや考えを伝えあったりできるような学びあいの場を設定する。	B	<table><tr><th colspan="3">【達成状況】</th></tr><tr><td></td><td>R 1</td><td>R 2</td></tr><tr><td>児童</td><td>91.4</td><td>93.3</td></tr><tr><td>教職員</td><td>96.6</td><td>93.3</td></tr></table> ・学校全体で学習や生活のきまりを徹底し、落ち着いて学習に取り組めるようにした。 【次年度の方針】 ・児童同士が協力し合ったり教え合ったりする交流の場を意図的に設け、考えを伝え合うよさや面白さが実感できるような授業や教育的活動の充実を図る。	【達成状況】				R 1	R 2	児童	91.4	93.3	教職員	96.6	93.3
【達成状況】																
	R 1	R 2														
児童	91.4	93.3														
教職員	96.6	93.3														

目指す児童の姿	A 2 児童は、思いやりの心をもっている。 【数値指標】 ・児童・教職員の肯定的回答率 90%以上	○あらゆる場面での「豊かな心の育成」の推進を図る。 ・本校の合言葉「やさしく かしこく たくましく」の周知 ・道徳の授業を核として、学校生活のあらゆる場面での指導 ・委員会活動や縦割り班活動の充実	B	【達成状況】 <table><tr><td></td><td>R 1</td><td>R 2</td></tr><tr><td>児童</td><td>88.1</td><td>89.1</td></tr><tr><td>教職員</td><td>96.6</td><td>96.7</td></tr></table> ・学級生活や学校全体で指導してきた。 【次年度の方針】 ・各学級の帰りの会等などで親切にしてもらったことや優しくしてもらったことを伝え合う場を設ける。 ・道徳の授業で思いやりについて考えさせる。		R 1	R 2	児童	88.1	89.1	教職員	96.6	96.7					
		R 1	R 2															
	児童	88.1	89.1															
	教職員	96.6	96.7															
	A 3 児童は、きまりやマナーを守って、生活をしている。 【数値指標】 ・児童・教職員の肯定的回答率 90%以上	○安全な学校生活を送るためにきまりやマナーを守る意識の向上を図る。 ・「みゆきよい子の一日」の家庭への配付と学級掲示 ・職員会議にて「共通理解と指導の統一」 ・毎月の週番（週間目標）の周知と掲示 ・学年、学級による「きまりやマナー」の指導 ・集団の場における話の聞き方の徹底	B	【達成状況】 <table><tr><td></td><td>R 1</td><td>R 2</td></tr><tr><td>児童</td><td>85.4</td><td>84.1</td></tr><tr><td>教職員</td><td>89.7</td><td>90.0</td></tr></table> ・話を聞く姿勢は身に付いてきたので、今後も自ら行動できるよう促していく。 【次年度の方針】 ・時勢や児童の実態に沿った見直しをし、各学級での指導を徹底して定着を図る。		R 1	R 2	児童	85.4	84.1	教職員	89.7	90.0					
	R 1	R 2																
児童	85.4	84.1																
教職員	89.7	90.0																
A 4 児童は、時と場に応じたあいさつをしている。 【数値指標】 ・児童・教職員の肯定的回答率 90%以上 ・保護者・地域住民の肯定的回答率 80%以上	○あいさつに対する意識向上を図る。 ・児童によるあいさつ活動の実施（委員会による毎週金曜日のあいさつ運動） ・職員からの積極的なあいさつの励行	A	【達成状況】 <table><tr><td></td><td>R 1</td><td>R 2</td></tr><tr><td>児童</td><td>91.2</td><td>92.5</td></tr><tr><td>教職員</td><td>62.1</td><td>83.3</td></tr><tr><td>保護者</td><td>77.0</td><td>78.8</td></tr><tr><td>地域住民</td><td>93.3</td><td>100</td></tr></table> ・様々な場面で自分からあいさつできるよう促していく。 【次年度の方針】 ・登下校時などの学校外でのあいさつに課題が残るため、今年度同様、あいさつ運動など継続的な指導に努めるとともに、地域のや保護者へも学校だよりなどで働きかける		R 1	R 2	児童	91.2	92.5	教職員	62.1	83.3	保護者	77.0	78.8	地域住民	93.3	100
	R 1	R 2																
児童	91.2	92.5																
教職員	62.1	83.3																
保護者	77.0	78.8																
地域住民	93.3	100																
A 5 児童は、目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる。 【数値指標】 ・児童・教職員・保護者の肯定的回答率 85%以上	○目標を設定して取り組ませる指導を行う。 ・本校の「めざす児童像」の「健康でねばり強い子」の育成 ・学期始め等に学習・生活の目標の設定 ・年3回のチャレンジテストの実施 ・体育等における各検定カードの活用（みゆき元気っ子ファイル）	B	【達成状況】 <table><tr><td></td><td>R 1</td><td>R 2</td></tr><tr><td>児童</td><td>88.3</td><td>88.3</td></tr><tr><td>教職員</td><td>86.2</td><td>93.3</td></tr><tr><td>保護者</td><td>76.1</td><td>80.0</td></tr></table> ・目標にむかって努力する過程での励ましや賞賛を大切に今後も取り組んでいく。 【次年度の方針】 ・従来の方法内容を検討し、本校児童の実態に合ったものに修正・活用していく。		R 1	R 2	児童	88.3	88.3	教職員	86.2	93.3	保護者	76.1	80.0			
	R 1	R 2																
児童	88.3	88.3																
教職員	86.2	93.3																
保護者	76.1	80.0																
A 6 児童は、健康や安全に気を付けて生活している。 【数値指標】 ・児童・教職員・保護者の	○運動への意欲の向上を図る。 ・毎週水曜日の昼休みに、外遊びの日を設け、運動への意識の向上を図る。 ・月に1度のスポーツウィークを実施する。	B	【達成状況】 <table><tr><td></td><td>R 1</td><td>R 2</td></tr><tr><td>児童</td><td>89.7</td><td>91.5</td></tr><tr><td>教職員</td><td>86.2</td><td>100</td></tr><tr><td>保護者</td><td>82.8</td><td>89.8</td></tr></table>		R 1	R 2	児童	89.7	91.5	教職員	86.2	100	保護者	82.8	89.8			
	R 1	R 2																
児童	89.7	91.5																
教職員	86.2	100																
保護者	82.8	89.8																

肯定的回答率 90%以上	○ 望ましい食習慣づくりの推進を図る。 ・お弁当の日・おにぎりの日の実施。 ・栄養士が各クラスで共食，指導に当たすることで給食指導の充実。 ○児童一人一人が自分の安全を確保するという意識を育てる。 ・安全マップの作成や登下校時の危険を想定した指導の充実	・感染症予防に，学校・家庭・地域一体となって取り組むことができた。 【次年度の方針】 ・3密を避けた外遊び等の活動を推奨する。 ・手洗い，うがいを徹底する。 ・健康観察，体温チェックカードを用いた児童の健康状況を把握する。 ・感染症予防に配慮した給食指導の徹底を図る。 ・安全マップの作成や登下校時の危険を想定した指導を充実する。												
A 7 児童は，夢や目標をもって，社会に貢献できるように努力している。 【数値指標】 ・児童・教職員・保護者の肯定的回答率 85%以上	○年間指導計画に基づく計画的な実践を行う。 ・道徳教育の充実 ・出前授業や見学・体験学習を取り入れた学習の展開 ・地区内工業団地との連携	A 【達成状況】 <table border="1"> <thead> <tr> <th></th><th>R 1</th><th>R 2</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>児童</td><td>88.3</td><td>88.3</td></tr> <tr> <td>教職員</td><td>86.2</td><td>93.3</td></tr> <tr> <td>保護者</td><td>76.1</td><td>80.0</td></tr> </tbody> </table> ・家庭や地域との連携が少なかった。 【次年度の方針】 ・教科等とキャリア教育と関連付け，家庭と連携しながら推進していく。 ・図書室の利用で仕事を知る機会を設ける。		R 1	R 2	児童	88.3	88.3	教職員	86.2	93.3	保護者	76.1	80.0
	R 1	R 2												
児童	88.3	88.3												
教職員	86.2	93.3												
保護者	76.1	80.0												
A 8 児童は，英語を使ってコミュニケーションしている。 【数値指標】 ・児童・教職員の肯定的回答率 85%以上	○英語を通じて積極的にコミュニケーションをとろうとする態度を育てる。 ・ALT との綿密なミーティングを行い指導の充実を図る。 ・児童相互や児童対教師など，「人」との関わりが持てる活動を設定する。	B 【達成状況】 <table border="1"> <thead> <tr> <th></th><th>R 1</th><th>R 2</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>児童</td><td>85.2</td><td>85.8</td></tr> <tr> <td>教職員</td><td>86.2</td><td>90.0</td></tr> </tbody> </table> ・教員も積極的に授業を行った効果がでてきている。 【次年度の方針】 ・ALT と綿密に連携して指導する。英語のゲームや体験活動など，児童が意欲的に参加できる活動を取り入れ，英語による対話を楽しむことができるよう授業を工夫する。 ・校内掲示（教室名や階段への掲示）には，掲示係を中心に，計画的に進める。		R 1	R 2	児童	85.2	85.8	教職員	86.2	90.0			
	R 1	R 2												
児童	85.2	85.8												
教職員	86.2	90.0												
A 9 児童は，宇都宮の良さを知っている。 【数値指標】 ・児童・教職員・保護者の肯定的回答率 80%以上	○様々な機会をとらえて，宇都宮の特長を考えさせる指導に努める。 ・給食の地産地消メニューから地元の特産品に触れる。 ・スタンダードダイアリー，宇都宮の歌，みや元気っこ体操の活用	A 【達成状況】 <table border="1"> <thead> <tr> <th></th><th>R 1</th><th>R 2</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>児童</td><td>76.6</td><td>77.6</td></tr> <tr> <td>教職員</td><td>55.2</td><td>70.0</td></tr> <tr> <td>保護者</td><td>59.8</td><td>60.4</td></tr> </tbody> </table> ・教科等や給食指導など，様々な面から意識付けを図ってきた。 【次年度の方針】 ・総合的な学習の時間や給食での地産地消メニュー，スタンダードダイアリーに掲載されている内容を授業などで取り上げ，宇都宮のよさを伝える機会を設けていく。		R 1	R 2	児童	76.6	77.6	教職員	55.2	70.0	保護者	59.8	60.4
	R 1	R 2												
児童	76.6	77.6												
教職員	55.2	70.0												
保護者	59.8	60.4												
A10 児童は，I C T機器や図書等を学習に活用している。 【数値指標】 ・児童・教職員・保護者の	○I C T機器や図書資料を有効に活用して学習する機会を設ける。 ・調べ学習，まとめ学習での積極的なI C Tの活用。 ・図書室の積極的利用と図書館司書との	A 【達成状況】 <table border="1"> <thead> <tr> <th></th><th>R 1</th><th>R 2</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>児童</td><td>78.3</td><td>81.3</td></tr> <tr> <td>教職員</td><td>93.1</td><td>96.7</td></tr> <tr> <td>保護者</td><td>67.9</td><td>75.9</td></tr> </tbody> </table>		R 1	R 2	児童	78.3	81.3	教職員	93.1	96.7	保護者	67.9	75.9
	R 1	R 2												
児童	78.3	81.3												
教職員	93.1	96.7												
保護者	67.9	75.9												

目指す学校の姿	肯定的回答率 85%以上	連携	B	・各学年で積極的な活用を図ってきた効果が出てきた。 【次年度の方針】 ・図書館司書と連携を取り、調べ学習に必要な図書資料を準備したり、資料の活用の仕方について支援したりしていく。 ・調べ学習だけでなく、学び合い活動においても、ICT 機器を効果的に活用していく。														
	A11 児童は、高齢者に対する感謝やいたわりの心をもっている。 【数値指標】 ・児童・教職員の肯定的回答率 90%以上	○お年寄りとのふれあう機会を充実させる。 ・5年生及び6年生による「お年寄りとの交流会」の実施 ・生活科「昔遊びを教わろう」の学習 ・運動会等への招待		【達成状況】 <table><tr><td></td><td>R 1</td><td>R 2</td></tr><tr><td>児童</td><td>88.1</td><td>89.1</td></tr><tr><td>教職員</td><td>96.6</td><td>96.7</td></tr></table> ・交流会は中止となったが、教育活動全体を通して思いやりの気持ちを育んできた。 【次年度の方針】 ・全学年で満遍なく交流の機会を設ける。		R 1	R 2	児童	88.1	89.1	教職員	96.6	96.7					
		R 1	R 2															
	児童	88.1	89.1															
	教職員	96.6	96.7															
A12 児童は、「持続可能な社会」について、関心をもっている。 【数値指標】 ・児童・教職員の肯定的回答率 85%以上	○様々な学習を通じて、環境や平和に関する認識を深め、持続可能な社会を考える機会を設ける。 ・総合的な学習の時間で持続可能な社会に関するテーマを取り上げる。 ・社会科における環境や平和に関する学習	B	【達成状況】 <table><tr><td></td><td>R 1</td><td>R 2</td></tr><tr><td>児童</td><td>82.6</td><td>86.8</td></tr><tr><td>教職員</td><td>27.6</td><td>66.7</td></tr></table> ・学習や生活の中で意識する機会が増えた。 【次年度の方針】 ・図書資料や校内掲示の充実を図り、環境や平和に関する事柄に触れたり、持続可能な社会について考えたりできる機会を増やす		R 1	R 2	児童	82.6	86.8	教職員	27.6	66.7						
	R 1	R 2																
児童	82.6	86.8																
教職員	27.6	66.7																
A13 教職員は、特別な支援を必要とする児童の実態に応じて、適切な支援をしている。 【数値指標】 ・教職員の肯定的回答率 90%以上	○特別な支援を必要とする児童の実態の把握と個に応じた指導を実施する。 ・「特別支援教育コーディネーター、児童指導主任を中心にした実態把握と情報共有 ・保護者や関係機関との連携 ・時宜を得たケース会議の実施	B	【達成状況】 <table><tr><td></td><td>R 1</td><td>R 2</td></tr><tr><td>教職員</td><td>100</td><td>96.7</td></tr></table> ・校内組織を活用し支援に努めた。 【次年度の方針】 ・早期の実態把握と全職員での情報共有を徹底し、ケース会議で対応を決めていく。		R 1	R 2	教職員	100	96.7									
	R 1	R 2																
教職員	100	96.7																
A14 教職員は、いじめが許されない行為であることを指導している。 【数値指標】 ・児童・教職員・保護者・地域住民の肯定的回答率 90%以上	○いじめ防止対策の取組を行う。 ・「いじめ」をテーマにした道徳の授業参観の実施 ・学年便りによる情報発信 ・年4回以上のアンケートの実施 ・委員会によるいじめ防止集会の実施 ・いじめ0標語やポスターの制作と掲示 ・保護者の考えるいじめ0標語の掲示	B	【達成状況】 <table><tr><td></td><td>R 1</td><td>R 2</td></tr><tr><td>児童</td><td>96.9</td><td>97.0</td></tr><tr><td>教職員</td><td>100</td><td>96.7</td></tr><tr><td>保護者</td><td>78.1</td><td>84.9</td></tr><tr><td>地域住民</td><td>81.8</td><td>92.9</td></tr></table> ・いじめ防止については、道徳や学級活動で取り上げた。また、児童会による呼びかけなど児童からの働きかけも促した。 【次年度の方針】 ・年に1回の授業参観の授業を学級で「いじめ」をテーマに実施する。 ・いじめゼロ月間で実施したことを学年だよりに記載し、情報発信をする。		R 1	R 2	児童	96.9	97.0	教職員	100	96.7	保護者	78.1	84.9	地域住民	81.8	92.9
	R 1	R 2																
児童	96.9	97.0																
教職員	100	96.7																
保護者	78.1	84.9																
地域住民	81.8	92.9																
A15 教職員は、不登校を生まない学級経営を行っている。 【数値指標】 ・児童・教職員・保護者の肯定的回答率 85%以上	○教職員が、児童の自己肯定感を高められるような指導に努める。 ・児童を認め励ます指導に努める。 ・Q Uや教育相談の結果を生かし、不登校傾向の早期発見や早期対応を図る。	B	【達成状況】 <table><tr><td></td><td>R 1</td><td>R 2</td></tr><tr><td>児童</td><td>95.0</td><td>96.0</td></tr><tr><td>教職員</td><td>96.6</td><td>93.3</td></tr><tr><td>保護者</td><td>80.0</td><td>88.0</td></tr></table> ・定期的なQ Uや教育相談を実施し、児童の		R 1	R 2	児童	95.0	96.0	教職員	96.6	93.3	保護者	80.0	88.0			
	R 1	R 2																
児童	95.0	96.0																
教職員	96.6	93.3																
保護者	80.0	88.0																

			状況を把握しながら対応に努めた。 【次年度の方針】 ・児童の様子を日頃より見守り，気になる児童に対しては早期対応を行う。 ・家庭との連絡をこまめに行う。												
A16 教職員は，外国人児童等の実態に応じて，適切な支援をしている。 【数値指標】 ・教職員の肯定的回答率 90%以上	○外国人児童に必要な支援の在り方を共有しつつ指導にあたる。 ・学級担任と外国語指導教員の密接な情報交換 ・保護者とのコミュニケーションによる信頼関係の構築	B	【達成状況】 <table><tr><td></td><td>R 1</td><td>R 2</td></tr><tr><td>教職員</td><td>100</td><td>96.7</td></tr></table> ・学級担任や保護者との連携を図った。 【次年度の方針】 ・今後も，学級担任・外国語指導教員が保護者と連携を取りながら，児童の実態に応じて適切な支援をしていく。		R 1	R 2	教職員	100	96.7						
	R 1	R 2													
教職員	100	96.7													
A17 学校は，活があり，明るくいきいきとした雰囲気である。 【数値指標】 ・児童・教職員・保護者の肯定的回答率 90%以上	○職員が児童の良さを認める指導を行う。 ・児童の良いところを積極的に賞賛する。 ・各種委員会，児童会，縦割り班等で児童を主体とした活動を充実する。 ・教職員が児童の前で明るくいきいきとした姿を見せる。	B	【達成状況】 <table><tr><td></td><td>R 1</td><td>R 2</td></tr><tr><td>児童</td><td>86.6</td><td>86.6</td></tr><tr><td>教職員</td><td>100</td><td>100</td></tr><tr><td>保護者</td><td>85.3</td><td>88.1</td></tr></table> ・お互いの良さを認め合う雰囲気づくりや役割を果たす機会などを大切に支援した。 【次年度の方針】 ・引き続き児童の良いところを積極的に賞賛するとともに，今年度制約が多かった各活動を状況に応じて活性化する。		R 1	R 2	児童	86.6	86.6	教職員	100	100	保護者	85.3	88.1
	R 1	R 2													
児童	86.6	86.6													
教職員	100	100													
保護者	85.3	88.1													
A18 教職員は，分かる授業や児童にきめ細かな指導を行い，学力向上を図っている。 【数値指標】 ・児童・教職員・保護者の肯定的回答率 90%以上	○個に応じた指導の充実を図り，一人一人の達成感や成就感を高める。 ・教材研究を共有し，予測されるつまづきの支援の手立てを工夫し，きめ細やかな指導の充実を図る。 ・習熟度別学習，少人数指導，週 2 回のレベルアップ教室の充実	B	【達成状況】 <table><tr><td></td><td>R 1</td><td>R 2</td></tr><tr><td>児童</td><td>94.3</td><td>96.0</td></tr><tr><td>教職員</td><td>100</td><td>100</td></tr><tr><td>保護者</td><td>80.5</td><td>84.0</td></tr></table> ・校内研修での授業研究や組織を活かした支援の在り方等について取り組んできた。 【次年度の方針】 ・かがやきルーム担当教員，少人数指導担当教員と連携を取りながら，支援が必要な児童の特性に合わせた指導を行っていく。 ・習熟度別学習や T.T 学習が効果的に実施できるよう，教材・教具，具体的な支援や手立てなど，学年全体で教材研究を進めていき，児童一人一人の実態に応じたきめ細やかな指導を充実させていく。		R 1	R 2	児童	94.3	96.0	教職員	100	100	保護者	80.5	84.0
	R 1	R 2													
児童	94.3	96.0													
教職員	100	100													
保護者	80.5	84.0													
A19 学校に関わる職員全員がチームとなり，協力して業務に取り組んでいる。 【数値指標】 ・教職員の肯定的回答率 90%以上	○学校全体で良好な人間関係作りに努め，情報交換や連携がしやすい環境を作る。 ・多様な専門性を有するスタッフとの連携協力を図る。	B	【達成状況】 <table><tr><td></td><td>R 1</td><td>R 2</td></tr><tr><td>教職員</td><td>96.3</td><td>93.3</td></tr></table> ・日頃のコミュニケーションを大切に，感染症対応や学校行事など，教職員の役割や良さを生かしながら取り組んだ。 【次年度の方針】 ・引き続き風通しの良い人間関係の構築に努め，連携協力を図っていく。		R 1	R 2	教職員	96.3	93.3						
	R 1	R 2													
教職員	96.3	93.3													

A20 学校は、教職員の勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる。 【数値指標】 ・教職員の肯定的回答率 85%以上	○学校の運営の見直しや行事の実施方法の改善を行う。 ・ネットワークシステムの活用など効率的な職務執行に努める。	【達成状況】 <table border="1"> <tr> <th></th><th>R 1</th><th>R 2</th></tr> <tr> <td>教職員</td><td>79.3</td><td>76.7</td></tr> </table> ・教職員の意識の高揚にはつながっているが、より具体的な方策が必要である。 【次年度の方針】 ・今年度感染症の影響等で中止・縮小した行事・活動を中心に、効率化の観点から必要性や実施方法を見直す。		R 1	R 2	教職員	79.3	76.7						
	R 1	R 2												
教職員	79.3	76.7												
A21 学校は、「小中一貫教育・地域学校園」の取組を行っている。 【数値指標】 ・教職員・保護者の肯定的回答率 85%以上	○地域学校園の取組を効果的に実施する。 ・あいさつ運動、乗り入れ授業等、地域学校園の取組を精選しつつ、一つ一つが効果的効率的に実施できるよう工夫する。	【達成状況】 <table border="1"> <tr> <th></th><th>R 1</th><th>R 2</th></tr> <tr> <td>教職員</td><td>93.1</td><td>93.3</td></tr> <tr> <td>保護者</td><td>79.4</td><td>75.8</td></tr> </table> ・感染症対策で活動中止が多かった。 【次年度の方針】 ・地域学校園の目指す活動を明確にし、保護者への実施状況・成果の周知を図る。		R 1	R 2	教職員	93.1	93.3	保護者	79.4	75.8			
	R 1	R 2												
教職員	93.1	93.3												
保護者	79.4	75.8												
A22 学校は、地域の教育力を生かした特色ある教育活動を展開している。 【数値指標】 ・保護者・教職員・地域住民の肯定的回答率 90%以上	○地域協議会と連携し、授業や行事での効果的な支援を受けられるようにする。 ・従来支援を受けてこなかった分野についても、ボランティアを募集するなど、連携を強化する。 ・地域協議会と連携した教育活動について、各種便りやHPなどで積極的な情報発信する。	【達成状況】 <table border="1"> <tr> <th></th><th>R 1</th><th>R 2</th></tr> <tr> <td>教職員</td><td>100</td><td>96.6</td></tr> <tr> <td>保護者</td><td>86.6</td><td>86.6</td></tr> <tr> <td>地域住民</td><td>93.3</td><td>92.9</td></tr> </table> ・できる範囲で工夫しながら進めた。 【次年度の方針】 ・教育活動との関連を踏まえ、より効果的な活動について再検討する。		R 1	R 2	教職員	100	96.6	保護者	86.6	86.6	地域住民	93.3	92.9
	R 1	R 2												
教職員	100	96.6												
保護者	86.6	86.6												
地域住民	93.3	92.9												
A23 学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、よりよい児童の育成に取り組んでいる。 【数値指標】 ・保護者・教職員・地域住民の肯定的回答 90%以上	○生活科、総合的な学習の時間、社会科等における校外学習や出前授業等、地域の人材や企業と連携した教育活動の実施。	【達成状況】 <table border="1"> <tr> <th></th><th>R 1</th><th>R 2</th></tr> <tr> <td>教職員</td><td>100</td><td>96.6</td></tr> <tr> <td>保護者</td><td>86.6</td><td>86.6</td></tr> <tr> <td>地域住民</td><td>93.3</td><td>92.9</td></tr> </table> ・できる範囲で工夫しながら進めた。 【次年度の方針】 ・感染症の状況を勘案しつつ、実施の在り方について検討していく。		R 1	R 2	教職員	100	96.6	保護者	86.6	86.6	地域住民	93.3	92.9
	R 1	R 2												
教職員	100	96.6												
保護者	86.6	86.6												
地域住民	93.3	92.9												
A24 学校は、利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている。 【数値指標】 ・保護者・地域住民の肯定的回答率 85%以上	○施設設備の整備 ・毎月の安全点検の実施。 ・危険個所の周知。 ・修繕箇所への迅速な対応。	【達成状況】 <table border="1"> <tr> <th></th><th>R 1</th><th>R 2</th></tr> <tr> <td>保護者</td><td>83.5</td><td>87.7</td></tr> <tr> <td>地域住民</td><td>93.3</td><td>100</td></tr> </table> ・日々の確認や定期的な点検に努めた。 【次年度の方針】 ・引き続き今年度の活動を継続していく。		R 1	R 2	保護者	83.5	87.7	地域住民	93.3	100			
	R 1	R 2												
保護者	83.5	87.7												
地域住民	93.3	100												
A25 学校は、学習に必要なICT機器や図書等を整えている。 【数値指標】 ・教職員の肯定的回答率 85%以上	○機器や図書の整理、確認を随時行い、有効活用を図るとともに、必要に応じて補充を行い、学習環境を充実させる。	【達成状況】 <table border="1"> <tr> <th></th><th>R 1</th><th>R 2</th></tr> <tr> <td>教職員</td><td>93.1</td><td>96.7</td></tr> </table> ・有効活用について教職員間で情報共有する機会が増えてきた。 【次年度の方針】		R 1	R 2	教職員	93.1	96.7						
	R 1	R 2												
教職員	93.1	96.7												

				・新規導入される児童一人一台の端末を有効活用する。											
本校の特色・課題等	B 1 児童は朝会や集会で、教師や友達の話に耳を傾け、しっかりと聞いている。 【数値指標】 ・児童・教職員の肯定的回答率 90%以上	○集会等では、注意されなくても静かに人の話を聞くなど、基本的な態度の定着を図る。	B	【達成状況】 <table><tr><td></td><td>R 1</td><td>R 2</td></tr><tr><td>児童</td><td>90.9</td><td>91.8</td></tr><tr><td>教職員</td><td>96.4</td><td>100</td></tr></table> ・感染症対応で校内放送が主だったが、よく聞く姿勢が身に付いている。 【次年度の方針】 ・集団生活の中で基本的な話の定着を図る		R 1	R 2	児童	90.9	91.8	教職員	96.4	100		
		R 1	R 2												
	児童	90.9	91.8												
教職員	96.4	100													
B 2 学校は読書活動を積極的に推進している。 【数値指標】 ・児童・教職員・保護者の肯定的回答率 90%以上	○読書カードの活用や学年だより、図書だより等での呼びかけで、家庭での読書を奨励する。 ○図書室利用を活性化するため、多様なジャンルの本に触れる機会をつくる。 ・5分間ドリルの活用 ・司書によるブックトークやボランティアによる読み聞かせ	B	【達成状況】 <table><tr><td></td><td>R 1</td><td>R 2</td></tr><tr><td>児童</td><td>88.1</td><td>90.3</td></tr><tr><td>教職員</td><td>100</td><td>100</td></tr><tr><td>保護者</td><td>88.8</td><td>89.8</td></tr></table> ・図書室の利用やボランティアの読み聞かせには制限があったが、学級ごとの貸し出しが徹底した。 【次年度の方針】 ・週 1 回、学級ごとの図書室利用の時間を確保し、読書活動の充実を図る。 ・図書館司書との連携を密にとり、授業での活用を計画的に進めていく。		R 1	R 2	児童	88.1	90.3	教職員	100	100	保護者	88.8	89.8
	R 1	R 2													
児童	88.1	90.3													
教職員	100	100													
保護者	88.8	89.8													
B 3 児童は、漢字や計算チャレンジに積極的に取り組んでいる。 【数値指標】 ・児童・保護者の肯定的回答率 85%以上	○チャレンジテストを活用して、家庭学習の習慣化を図る。 ・チャレンジテストに向けて自主的に学習に取り組めるようにする。 ・保護者に対しても協力を得られるよう啓発していく。	B	【達成状況】 <table><tr><td></td><td>R 1</td><td>R 2</td></tr><tr><td>児童</td><td>88.8</td><td>90.5</td></tr><tr><td>保護者</td><td>83.0</td><td>88.2</td></tr></table> ・自分なりの目標を決めてチャレンジすることができたが、漢字・計算に偏りすぎた面もあった。 【次年度の方針】 ・チャレンジテストは実施せず、宮っ子ステップアップシート（漢字・計算年5回ずつ）を活用し、年計に位置づけて計画的に行うことで、学力の定着を図っていく。 ・計算ストレッチは授業の中では行わず、朝の学習の時間を利用して、計算練習だけでなく、文章問題や復習プリントを実施し、基礎的・基本的な知識・技能の定着を図る。		R 1	R 2	児童	88.8	90.5	保護者	83.0	88.2			
	R 1	R 2													
児童	88.8	90.5													
保護者	83.0	88.2													

〔総合的な評価〕

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

○感染予防のため、教育活動も多く制限があったが、回答結果からおおむね良好に教育活動が進められていると考えられる。 1 めざす児童像の姿（A 1～A12） ・肯定的回答率は、昨年度より増加し 90%以上である項目が多い。A 1 の授業中の態度や A 2 の思いやりの気持ちなど、よい傾向がみられる。特に、A 6 の健康・安全については、学校・家庭・地域一体となっており取り組んだ成果がみられた。 ・A 4 のあいさつについては 4 者の回答に差があるため、今後も家庭や地域と連携して取り組んでいく。 ・A 9 の宇都宮の良さや A10 の ICT の活用、A12 の持続可能な社会への関心等については、意識の向上も見られてきたので今後も様々な場面で効果的に取り組んでいきたい。

2 めざす教職員・学校像の姿（A13～A25）

- ・ A14 のいじめやA15 の不登校への対応については、道徳や学級活動等で取り上げたり、おたよりで家庭や地域に発信したりしてきたが、保護者との連携がより必要である。
- ・ A17 の学校の活気については、感染症予防により活動が減少したこともあるが、安心・安全な教育環境のもと、自分の良さを十分発揮していけるよう今後も取り組んでいく。
- ・ A20 の勤務管理、A21 の地域学校園、A22 の地域の教育力等については、感染症対応もあり十分に取組むことができなかった。次年度は、感染症予防を踏まえながらよりよい活動になるよう検討するとともに、情報発信に努める。

3 本校の特色

- ・ B 1 の話の聞き方、B 2 の読書活動、B 3 の漢字・計算チャレンジの3項目において、全て前年度より肯定的回答率が増加しており、児童の成長がみられた。

7 学校関係者評価

- ・ 全般的に肯定的回答率が昨年度より上昇している。取組の成果が表れているものと考えられる。
- ・ 新型コロナにより、よい意味で活動の見直しにつながった部分もあった。今後も時代に合ったやり方を検討していく必要がある。
- ・ 新型コロナでさまざまな活動が中止になったことは残念だった。しかし、入学式・運動会など、重要な節目となる行事を感染予防に工夫しながら実施できたことはよかったと思う。来年度はコロナ禍の状況も踏まえた活動計画を早めに立てられるとよいと思う。
- ・ A10（情報機器の活用）は肯定的回答率が向上してきているのはよいことだと思う。今後も情報機器を効果的に活用できるようにして欲しい。
- ・ A21（小中一貫）の児童の肯定的回答率が低下していることが懸念される。感染症対策で活動ができなかったことが影響していると思われるが、来年度の取組については十分に検討するとともに、活動の周知にも力を入れればよいのではないかな。
- ・ 長期にわたる学校休業で、児童間の学力格差が広がったのではないかと心配している。困難な状況だとは思いますが、十分に配慮して教育活動を進めてほしい。
- ・ やむを得ないこととは思いますが、コロナのため学校へ行く機会が減ったので、児童の様子がよくわからなかった。

8 まとめと次年度へ向けて（学校関係者評価を受けて）

学校関係者評価を踏まえ、次年度の教育活動については、新型コロナウイルス感染予防を第一に、以下の点に留意しながら創意工夫し着実に取り組んでいきたい。

- ・ 家庭や地域、鬼怒地域学校園とのより一層の連携を図り教育活動の充実に努めるとともに、児童と向き合う時間の確保を目指し、今後も行事の精選・効率化や働き方改革を進めていく。
- ・ 教育活動全体を通して宮・未来キャリア教育との関連を図り、なりたい自分を目指して自分のよさに気付いたり、より主体的に学習や生活に取り組んだりする態度の育成に努める。
- ・ 学習指導については、ICTの活用や情報モラルの育成に努めながら、主体的、対話的で深い学びの実現を目指して授業改善に取り組むとともに、安心して意見を伝え合える学級づくりに一層力を入れていく。個に応じた指導については、少人数指導や習熟度別学習の活用、家庭学習の習慣化等に取り組み、学習内容の確実な定着を図っていく。
- ・ 児童指導については、道徳や特別活動等を通して主体的な実践力の育成に努めるとともに、様々な機会を捉えてお互いを理解し合いながら、多様性を認め合う集団づくりに努める。
- ・ 健康・体力については、体育や学級活動を通して感染症に係る正しい理解を深めるとともに、危険予測・回避能力の向上に努める。